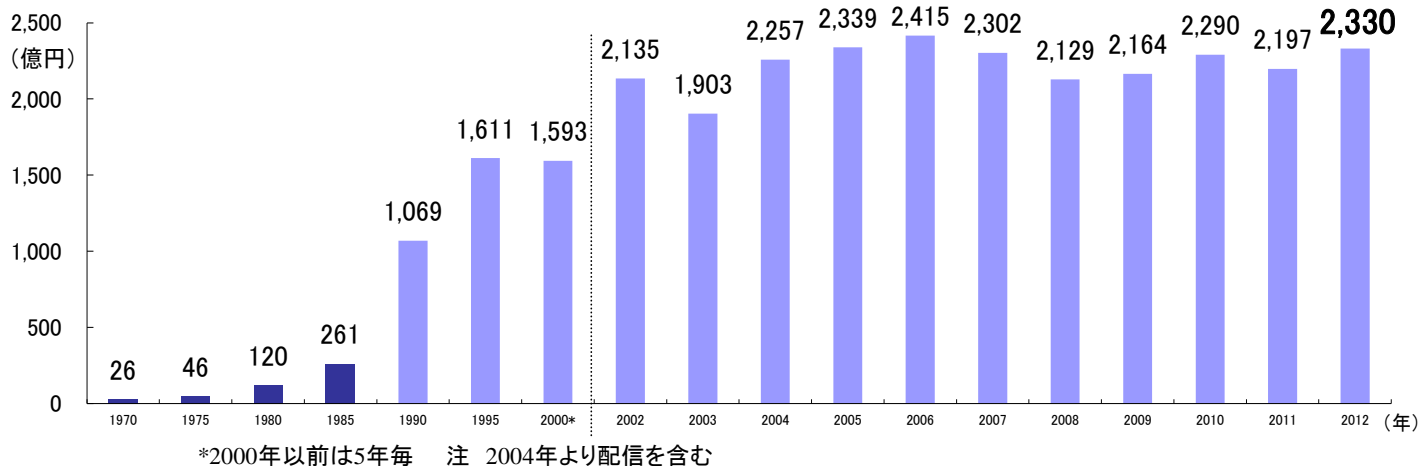


2012年のアニメ市場は2300億円台に回復

◆アニメーション市場規模の推移<1970-2012年>



弊社が毎年実施している「アニメーション市場分析プロジェクト」の調査結果がまとまりましたので、その一部を発表いたします。

2012年(暦年)のアニメーション市場規模(ユーザー支出額)は、劇映画市場が大きく増加し、合計2330億円(前年比106.1%)と伸長しました。

内訳をみると、劇映画市場は邦画部門が市場を牽引しました。定番となったシリーズ作品の興行収入が安定しており、その上にジブリ作品以外では届くことが稀であった興行収入40億円の壁を超える作品がいくつか生まれ、邦画市場は前年から約1.5倍に拡大しました。

テレビアニメは、前年比微増となっています。衛星・CATVは市場全体が横ばいとなったため微減しましたが、放送本数が増加した地上波放送がそれを補う形となっています。

ビデオソフト市場はブルーレイへの移行がさらに進んでいますが、DVDの減少をブルーレイがカバーできていないため減少が続いています。しかしながら、アニメは高画質と相性のいいジャンルであり、ブルーレイの中でアニメの占有率が高まっていることから、今後市場の回復が期待されます。

配信市場は大きく伸長しています。家庭内・外のインフラが整ったことに加え、スマートフォン向けの定額制サービスがユーザーのニーズにマッチしたことが市場の拡大に繋がっています。今後は、スマートフォン、タブレット端末、PCなど複数のデバイスで共有できる定額制サービスが出てくることで、さらに市場が拡大していく事が予想されます。

2013年は、さらに配信市場の存在が大きくなることが予想されます。携帯キャリア各社は、配信サービスの拡大と共にコンテンツを充実させつつあり、ライトユーザーを取り込むことで、加速的に市場を伸ばしていく可能性があります。また、劇映画では引退を発表した宮崎駿監督作品「風立ちぬ」が2013年9月時点で興行収入100億円を突破し、市場を牽引することが見込まれます。

<市場の範囲>

・劇場用アニメ、アニメビデオソフト(セル/レンタル)、テレビアニメ、配信(PC、IPTV、携帯向け)

注)算出に際してはユーザー支出レベルで統一しています。ただしユーザーが直接支出に関与していない地上波およびBS放送で放映されたアニメに関しては、制作費を市場規模として採用しています。

<本リリースに関するお問い合わせ>

株式会社 メディア開発総研 担当:戸口、西川 TEL:03-5261-8927 FAX:03-5261-8928 e-mail:info@mdri.co.jp

引用、転載される場合は、クレジット(メディア開発総研発表)を入れていただくか、上記担当へ連絡を願います。